

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493300014
法人名	有限会社 水車の里
事業所名	グループホーム 水車の里
訪問調査日	平成21年3月12日
評価確定日	平成21年5月13日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493300014号
法人名	有限会社 水車の里
事業所名	グループホーム 水車の里
所在地	横浜市緑区新治町1101-2 (電話) 045-938-0595

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年5月13日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 1日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	20人	常勤 10人	非常勤 10人	常勤換算 15.0人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2 階建ての 1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	53,970 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	## ##	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (2月1日 現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	61 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 一成会 たちばな台病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

水車の里は、JR横浜線の十日市場駅近くにあり、東に市民の森、西に住宅地が広がる高台にあります。日当たりと景観にすぐれた中で「入居者様・ご家族・職員で築くグループホーム」を目標としています。発足後3年近く、生活支援の基盤作りが充実しており、運営推進会議による地域との意志交流や地域ケアプラザとの連携、職員の異動と補充への対応、終末期への対応、管理者のキャラバンメイトの活動など、サービスの向上に力を入れています。利用者は毎日の外出やお風呂、おやつ作り、畑での収穫、玄関の前のベンチでくつろぐなど楽しい毎日を送っています。家族の状況にも特に気を配っています。医療依存の強い透析、水分制限、脂肪制限のある人も受け入れているグループホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、理念に地域交流を盛り込むようにとの指摘がありましたが、今回は実際にはかなり地域に溶け込んでいます。ケアプラザの利用、ボランティアの来訪、中学生の体験学習の受け入れなど、地域に密着しています。理念としての言語化までに至っていないので、「水車の里」にふさわしい言葉を理念に入れることが期待されます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、常勤職員が個々に記載したものを管理者がまとめました。管理者、職員とも自己評価は、振り返りのよい機会と考えています。管理者は職員のミーティング、家族会、運営推進委員会で取り上げ、今後に生かしていく予定です。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>隣同士の自治会に隣接しているので、両方の自治会からの出席を得て、民生委員、地域包括支援センター職員、認知症介護指導者、家族代表、利用者も交えて有意義な会議にしています。災害時の協力や介護職員の定着についての助言も出るなど、力強い協力を得ています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月のホーム便りや利用者の様子や写真を、手書きの手紙に添えて家族に郵送したり、連絡帳を通しての家族との綿密な連携を図っています。意見は家族からは直接管理者に言ってきます。今後は家族会を活発にして、家族会でまとめた意見を出してもらいような仕組みづくりを考えていく意向です。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域ケアプラザの囲碁教室、歌声広場を利用者が活用しています。地域の方がボランティアで華道を教えに来てくれたり、オカリナや腹話術のボランティアもきてくれます。もちつき大会は大好評でした。交番を訪問しておまわりさんに顔を覚えていただいたりしています。今後はさらに近隣の人への呼びかけを心がけていきます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で意見を出し合って作った理念があり、玄関に掲げられています。「その人らしさ」を大切に考えたものになっていますが、地域交流は盛り込まれていません。		実際には、地域交流や家族の協力もかなり取り込まれていますので、地域との交流を言葉として理念に取り入れる事が期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を掲げてあるだけでなく、利用者、職員全員の道しるべであると考えています。新人研修の折にはもちろん、ミーティング時などに理念を言葉ではなく、ケア内容に織り込んで話すように努力しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ケアプラザの囲碁教室、歌声広場を利用者が活用しています。地域の方がボランティアで華道を教えに来てくれたり、オカリナや腹話術のボランティアもきてくれます。もちつき大会は大好評でした。今後はさらに近隣の人への呼びかけを心がけていきます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は常勤職員全員がそれぞれ記入し、管理者がまとめました。振り返りの機会ととらえ、熱意をもって取り組んでいます。昨年の結果と自己評価は玄関においてあり、見学者も見ることが出来ます。今年の方は家族に郵送し、職員にはミーティングで議題に取り上げ、運営推進会議でも報告します。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣同士の自治会に隣接しているので、両方の自治会からの出席を得て、民生委員、地域包括支援センター職員、認知症介護指導者、家族代表、利用者も交えて有意義な会議にしています。災害時の協力や、介護職員の定着についての助言もあり、協力体制が整っています。記録も確認しました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	緑区・青葉区の連絡会に参加したり、横浜市認知症介護実践研修の受け入れ先として横浜市から委託されました。管理者はキャラバンメイトの活動も行っています。生活保護者も受けいれているので、生活保護課との連絡も密に行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、出納帳や「里だより」を送るほか、管理者は利用者の様子や写真を、手書きの手紙に添えて郵送しています。利用者1人ひとりに連絡帳を用意して、家族に伝えたいことをその都度記載し、面会時などに連絡漏れがないようにしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と綿密な連携を取っています。意見は家族から直接管理者に言ってきます。今後は家族会を活発にして、家族会でまとめた意見を出してもらえるような仕組みづくりを考えていく意向です。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限にするため、常勤職員を増やすなどの対策をとり、利用者へのダメージを防いでいます。新人職員が増えることで、利用者へのケアに差が出ないように配慮しています。退職職員の場合は「里だより」で家族に報告をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のほか、定期的に勉強会を開催し、内部研修、交換研修などにも力を入れています。今回の新人教育は管理者自らが現場で一緒に取り組む体制をとり、結果を出せるよう取り組んでいるところです。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、横浜高齢者グループホーム連絡会、緑区・青葉区連絡会などに出席し、ネットワークづくりに励んでいます。職員は他のグループホームでの交換研修へ参加しています。管理者は認知症の研修会や意見交換会に職員も連れて行くなど、職員の交流の場を増やす努力をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にセンター方式の様式をご家族に渡し、記入してもらいます。それによって今までの情報が得られるので、入居当初からきめ細かく対応しています。慣れるまでは混乱しても、利用者を見守り続けるうちに、徐々に落ち着いて穏やかになっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	魚釣りの大好きな利用者には、釣りについて話してもらいます。ひな祭りの時には、ちらし寿司のレシピについて聞いたり、昔のしきたりなどを教えてもらっています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	喫煙する人には場所を設けて許可しています。ラーメンの好きな人には、職員と1対1でラーメンを食べに行きます。仲良しグループでケーキを食べに行く会なども作っています。カロリーや水分制限をしている人は、ストレスがたまらないように医師と相談の上、開放日を設けるようにするなど利用者に大好評です。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前に家族に渡したセンター方式から得た情報はケアプランに反映しています。編み物が好きな人には、ケアプランに入れるか、職員が対応するかなど、職員間で協議して決めます。ケアプランモニタリング書式、ケアプラン書式とも創意と工夫がみられ、職員一同の熱意を感じます。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケア記録を記入するときに、ケアプランに沿ったケアが出来たか出来なかったかを記入するようにして、その結果を見直し時に生かしています。モニタリングは家族に報告し、職員の意見を入れて作っています。通常は3か月に1度の見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療関係は、主治医による日常の健康管理と緊急時の連携病院、さらに医療連携体制加算による24時間体制が整っており、安心です。夕方には二回目のバイタル測定による異変の早期発見にも努めています。歯科の往診も行われています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に主治医の往診があり、提携医療機関で治療方針について相談することも行われています。入居以前のかかりつけ医との対応も行われ、専門の精神科医や眼科を受診する利用者もいます。この結果は家族に報告されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族には、「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、終末期の希望を聞くとともに、ホームでできることやできないことのサービス内容を説明し、意志の疎通を図っています。容態が急変した時は、主治医と訪問看護ステーションと連携して、対応することにしています。昨年の事例で職員は多くのことを学び、適切な対応が行われています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋に入る時は、声かけやノックを、また早期のさりげないトイレ誘導を行いパットを使用しないようにして、利用者の居心地良い場所作りに努めています。個人記録は事務所で保管、職員からは誓約書を得て自覚を持ってもらっています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、昼寝、風呂などは、基本的に自分のペースで過ごせるようにしています。本人の希望やサインがあれば、速やかに支援するようにしています。携帯電話の利用も自由です。行事についてはカレンダーに記載され、利用者は今日の予定を確認しながら楽しみにしています。ホームの案内役も利用者が行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、茶わんやお椀、湯飲みは個人用のものを使っています。食事は彩りよく美味しい。透析の利用者などへの個別メニューも用意されています。食事の準備や後片付けは、入居者の得意な部分で楽しみながら参加しています。自前のおやつ作りも利用者が参加して楽しんでいます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能で、利用者の希望の時間に合わせています。自分の力に入れるよう、また大事な会話時間でもあり、職員と1対1でお手伝いするようにしています。タイミングを要する利用者には臨機応変な対応をしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、清掃、畑の収穫、囲碁など得意なことや役割づくりは、ケアプランに入れ、生かすようにしています。当たり前になると次の環境づくりへの配慮をしています。ボランティアによる華道教室、家族の協力によるパーベキューも楽しみにしています。2階の利用者が1階にきて歌で交流する方もいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良ければ毎日のように散歩に出かけ、近所の方に挨拶したり自動販売機の利用もしています。交番を訪問しておまわりさんに顔を覚えていただいたり、敷地内のベンチで日向ぼっこも行われています。遠いアウトレットやスーパーへの買い物は車を使っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	解放感に留意し、中玄関ドアを開放し1階と2階の階段やエレベーターを通した行き来をしたり、事務所への出入りは自由にしています。出入り自由なベランダでの作業や玄関前の日向ぼっこも行われています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防と避難訓練が行われ、消防職員の指導と参加もあり、入居者も消火器訓練をしています。避難訓練では、出火場所を特定し、おぶったり車いすの2階からの搬送も実験してみました。備蓄は1階玄関の収納場所に保管しています。火気等の自主点検もチェックリストで行っています		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は外注の福祉メニューにより提供され、栄養士による透析食、脂肪制限食も提供され、調理方法も丁寧に説明されています。食事量・水分摂取量は記録され、全職員が状態把握しています。飲み物もコーヒー・紅茶・レモン水・オレンジジュースなどが用意されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは明るく清潔で、窓から新治市民の森が見えます。朝日や夕日も見え、畑で野菜を育てられ、草花も植えられています。中学生が作った手作りのカレンダーが飾られ、予定が記入されています。ぬり絵・折り紙の作品が飾られています。事務所の窓の外に椅子が置かれ、管理者や職員と話すような空間もあります。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や身の回り品や作品・写真が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良い環境となっています。部屋はきれいに掃除されています。緑と日当たりが良いすばらしい環境です。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 水車の里
(ユニット名)	1
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	ホーム長 江田朱美
記入日	平成 21 年 2 月 16 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設から半年後、全職員の考えや思いを反映させ現在のホーム理念(目標)を作りました。ホーム理念は認知症介護の専門家として入居者様一人ひとりの「その人らしさ」を大切に考えたものとなっています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時の新人研修はもちろんのこと、カンファレンス等にて理念の重要性については定期的に再確認を行い、理念の実践に向け、日々取り組んでいます。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム理念はホーム玄関に掲示させていただいています。また、パンフレットへも掲載し見学、入居時には説明を行うなど、多くの方々にご理解いただけるよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	イベント開催時には近隣の方々へも便りなどでお知らせし、参加の呼びかけを行っています。また、散歩など外出の際には積極的に挨拶を行い良好な交流関係作りに努めています。ご近所の方には散歩の際に庭先の花を頂くなど大変よくしていただいています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内での催しなどについては自治会の方々より声をかけていただき楽しく参加させていただいています。年末の餅つき大会は入居者様にも大変好評で去年は全員参加にて地域の方々と交流を図ることができました。またケアプラザへの囲碁教室や音楽教室へも参加しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会名簿への記載などにより地域の方々から認知症や介護について気軽にホームへ相談に来ていただけるよう取り組んでいます。 またキャラバンメイトとしての活動にも参加し、近隣の方々へ認知症についての講座を開催しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で三度目となりますが外部評価・自己評価についてはカンファレンスにて再度説明を行っています。 今回も全常勤職員にて自己評価に取り組み、振り返りを行っています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をきっかけに多くの方々にホームを知っていただくことが出来ました。 皆様からのご意見については早急に対応し、サービスの向上へとつなげています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ブロック会などへは積極的に参加し情報交換する機会を多く持てるよう努め、サービスの向上へとつなげています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などを利用し各制度について学ぶ機会をつくっています。 また、必要な入居者様へは制度利用に対する支援を実際に行っています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の新人研修でも虐待や拘束について学ぶ機会を設けています。関連ポスターの貼付やカンファレンスなどを利用し虐待防止の徹底に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>初回面談より疑問点については十分確認を行い、不安の解消に努めています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にてホーム苦情窓口の案内を行っています。 また、公的機関における苦情窓口についても掲載し紹介を行っています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月送付する金銭出納帳やホーム便り以外にも定期的に入居者様の最近のお写真と共に近況報告を送付しています。 またご家族様来苑時には職員より近況報告を行っています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にてホーム苦情窓口の案内を行っています。 また、公的機関における苦情窓口についても掲載し紹介を行っています。入居後についてもご家族から頂いたご意見は必ず管理者へ報告する仕組みが出来ており早急な対応に努めています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関してはカンファレンス等にて報告を行い、職員の意見や提案が反映できるホーム作りに取り組んでいます。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様に状態の変化が見られる場合はカンファレンス等にて業務マニュアルの見直しを行い、業務内容の変更を行うなど柔軟な対応に努めています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間での移動については、必要最小限に抑えるよう努めています。また、ユニット同士、交流の機会を多く持つことでホーム内全体に馴染みの関係が出来るよう取り組んでいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修後は職員一人ひとりのスキルや得意分野を考慮し、外部研修への参加や、勉強会の開催などにて、常に安定したケアが提供できるよう努めています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会等での情報交換を始め、他グループホームとの交換研修などについても積極的に参加しネットワーク作りに努めています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員一人ひとりの状況に配慮し、無理なく業務が行えるよう、勤務時間や休みのとり方などについて柔軟に対応しています。 また、ホームで収穫された野菜などを無料にて提供しています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に職員がどのような状態にあるのか確認を行い、必要に応じ助言や支援を行っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談には十分な時間をかけ、ご本人やご家族の本当に求めていることや不安なことを理解した上で必要な援助、助言を行っています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談の日時や場所についても考慮し、ご家族が落ち着いた環境でゆっくりと話が出来るよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、現状に合わせた情報の提供に努めています。 他サービス事業所や行政とも連携し適切なサービスにつなげられるよう取り組んでおります。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学はもちろんの事、必要に応じ入居体験も可能です。 見学時は現入居者様との交流の機会を設けるよう努めることでホームの雰囲気を体感していただいております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさを大切に考え、その方の得意なことを発揮できる場面作りに取り組んでいます。人生の大先輩である入居者様から学ぶことは非常に多く、さまざまなことがホーム内にて実践されています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	相談を受けたり、ご意見を頂いたり、行事開催時には準備から片付けまで参加いただいております。 当ホームではご家族、職員が共に支え、築くグループホーム作りを目指しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各入居者様、ご家族様にとっての「最善の関係」作りに努めています。全職員がさまざまな思いを理解し、くみ取ることが出来るようカンファレンスなどを利用し取り組んでいます。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話などを利用し必要な支援が提供できるよう努めています。ご家族のほか、友人やご親戚などさまざまな方にご来苑頂いております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様一人ひとりの関係性を全職員が理解していることで必要な支援が提供できています。 他ユニットとの交流支援により気の合う入居者様同士が共に過ごし、生活に楽しみを持つことが出来ています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もホームより便りを送付したり、利用サービス事業所との連携により継続した関係作りに努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前よりセンター方式を利用しその人らしさを大切にした支援の提供に努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式をご家族様にも利用して頂くことで入居者様一人ひとりの生活歴の把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	概ね3ヶ月に一度のケアプラン見直し時にはカンファレンスにてじっくり話し合いを行っています。また、生活記録や申し送りノートにて全職員が情報を共有できるよう取り組んでいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	概ね3ヶ月おきにケアプランの見直しを行い、常に現状にあったケアの提供に努めています。ケアプランは全職員にて行ったモニタリング結果、入居者様やご家族様のご意向を反映し作成されています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月おきにケアプランの見直しを行っています。急変時にはご家族等と相談し現状に即したケアの提供に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録への記入のほか、毎日ケアプラン実施状況を記入しています。プラン実施の有無や提供内容等を記入する事でプラン見直し時の資料にもなっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望などについては早急に対応できるよう努めています。又、常に入居者様はもちろんの事、ご家族様がどのような状態にあるのか状況の把握に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの方による華道教室が開催されています。また、消防署職員参加による避難訓練や近隣の派出所にも協力頂き、入居者様の安全に努めています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前のケアマネジャーや以前利用されていたサービス事業所を始め、地域のさまざまな事業所と連携し話し合いの機会を設けています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議をきっかけに地域包括支援センターとの交流が始まりました。また、近隣に開設された地域包括支援センターとも協働し取り組んでいます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関のみならず、希望に応じ入居以前のかかりつけ医や専門医への受診についても柔軟に対応しています。受診後は家族へ結果を報告し治療方針についての話し合いを行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関への相談のほか、認知症専門医とも連携し適切な治療が受けられるよう支援しています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関の看護師とは些細なことでも気軽に相談できる関係が構築されています。看護師からの助言が日々の健康管理に活かされています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居様が安心して入院生活が送れるよう、介護サマリーにて情報提供を行っています。又、主治医とは直接話し合いする機会を設け、早期退院に努めています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族様へは「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」をお渡しし、ホームの方針、考え方について説明を行っています。 また必要な入居者様へは主治医とのムンテラ時、今後予想できる経過について説明し、共に今後の支援方法について検討しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状、ホームに出来る事の中で何が入居者様にとって一番良いのか、主治医、ご家族との相談を繰り返し支援を行ってきました。終末期はご家族様の気持ちも日により変化する為、何度も話し合いの機会を設け支援しています。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にお渡しする情報提供はもちろんの事、必要に応じて、新しいサービス事業所職員の方へも直接情報提供を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録は事務所に保管し取り扱いには十分配慮しています。</p> <p>入居者様の日々の生活はプライバシーに配慮された居心地の良い環境作りに努めています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入浴やその日に着用する衣類など、入居者様が選択する機会を作ることで自らの希望を表せるよう支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様一人ひとりの生活リズムを大切にし本人の希望に沿った支援の提供に努めています。入居者様からの希望やサインには柔軟に対応できるよう取り組んでいます。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしいおしゃれが楽しめるよう、お化粧品やマニキュアなどについても好みに合わせた支援の提供に努めています。理容・美容についても希望を伺い訪問理容や馴染みのお店の利用など柔軟に対応しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前のテーブル拭きから食事の準備、後片付けまで入居者様の状態に合わせた支援を行っています。お菓子作りなどはどの入居者様も楽しんで参加されています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>主治医と相談の上、飲酒・喫煙・おやつ等、継続して日常的に楽しめるよう支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表への記録にて一人ひとりの排泄パターンを確認し、適切な支援提供に努めています。また羞恥心に配慮し不必要なパッド等は使用せず、気持ちよくトイレにて排泄できるよう取り組んでいます。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の準備がされており、日々の状態に合わせた支援が提供できるよう努めています。入浴時間についても希望やタイミングに合わせ柔軟に対応しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に入居者様の状態に応じた対応を心がけています。又、その人らしい生活が送れるよう、一人ひとりの生活リズムに合った支援を行っています。昼寝の有無や就寝時間など一人ひとりさまざまです。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式やご自身、ご家族様からの情報をもとに日々のケアは行われています。日々の生活がより良いものとなるよう、一人ひとりに合った役割作りや楽しみごと、気晴らしがケアプランに組み込まれています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様、ご家族様と相談の上、金銭管理方法を決定しています。 希望によりご自身で金銭管理されている方も多く、買い物へ出かけた際や近くの自動販売機での購入などはご自身で支払いを行っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などへはいつでも出かけることが出来るよう対応を行っています。各ユニット間は開放されている為、敷地内のベンチにて気軽に日光浴を楽しむことができ入居者様の交流の場となっています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の希望はケアプランに反映され、外食や買い物、ピクニックなど、一人ひとりの希望に合った支援が提供されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状などでのやり取りのための支援の他、ホームの電話、携帯電話をお持ちの方もいっしょに、好きな時に好きな方とやり取りができるよう柔軟に対応しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各ご家族様の生活リズムを考慮し面会時間は設けていません。 気軽に訪問して頂けるよう、居心地の良い環境作りに努めております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等にて常に話し合い、確認し、日々のケアに取り組んでいます。また、今年度は他グループホームと共に身体拘束廃止に向けた取り組みを行っていく予定です。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面に留意しながらも開放感あるホーム作りに取り組んでいます。 日中玄関ドアは開放されている為、他ユニットとの交流が自由に行えています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に職員同士が声をかけ合い、入居者様の安全に配慮した対応に取り組んでいます。夜間には二時間おきの巡視の他、必要に応じた見守り、確認にて安全に考慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状態に合わせた対応を心がけています。薬品などは徹底した管理を行い、必要な物品に対しては一つひとつ適切な保管方法で対応を行っています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットにて収集した情報をもとに、月に一度業務改善委員会を開催し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応方法や応急方法については全て業務マニュアルに記載され、全てマニュアル化されています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的開催している消防・避難訓練では地域の消防署より指導を受けています。また、火災や災害発生時の避難方法については運営推進会議などにて地域の方々と話し合いを行っています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的に入居者様の状態については文書にて説明を行っています。必要に応じて主治医にも参加頂き、今後起こり得るリスクや対応策について話し合いを行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日二回のバイタルチェックや日々の観察により異変の早期発見に努めています。必要な情報は生活記録や申し送りノート、口頭申し送りなどにより情報提供され全職員が情報を共有できるよう取り組んでいます。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の内服薬、外用薬については日々の生活記録ファイルに一覧表が綴じられているため常に確認が行えるようになっています。内服薬服用後は他職員にてチェックを行い二重の確認を行っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄リズムを理解し適切な支援提供に努めています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの状況に合わせ支援しています。また、必要に応じ提携歯科医院による口腔管理も行われています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析食や糖尿食など入居者様の状態に合わせた調理方法が行われています。食事量や水分量については全て記録を行い全職員が状態把握できるようになっています。また数種類の飲み物を用意し好みや状況に合わせた摂取が出来るようになっています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策会議を設け担当委員からの研修報告などが行われています。また各状況に合わせた対応策が業務マニュアルにてマニュアル化されています。必要な情報は回覧にて全職員に情報提供されています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は週に一度、賞味期限などの状態確認を行っています。又、冷蔵庫については週に一度の清掃と毎日の温度確認にて管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が畑な事もあり、大変開放感のある出入りしやすい環境となっています。また入り口スロープには季節の花などを飾り、畑では季節の野菜が収穫され来苑者へのお土産となっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは新治市民の森を見渡すことができ、入居者様は四季折々の景色を楽しんでおります。又、ホーム内の光や音にもこだわり、居心地の良い環境作りに努めています。その他、月に1回華道教室が開催される為ホーム内には常に季節の花が生けられています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビングのほか、ローカの一角にもイスを設置し中間的な居場所作りを行っています。また、事務所内はいつでも気軽に入居者様が入り出りできるよう開放されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が快適に生活出来るよう、入居時には馴染みの家具やご自身の好みにあった家具の利用をお願いしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前中の掃除の際には各部屋の窓を開け換気を行っています。各部屋の温度にも配慮しその方の状況にあった対応を心がけています。特に冬場は加湿器や洗濯干しにて乾燥に注意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが身体機能を活かした生活が送れるよう配慮すると共に必要な箇所では手すりやイスなどを利用する事で安全面にも考慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケアプランはその人らしさを大切にした支援内容で作成されています。またモニタリングではどのようなことに混乱されるのか検討を行い原因の追究に努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム入り口に設置されたベンチにて気軽に日光浴を楽しんでいます。また、ベランダや洗濯干し場では趣味活動が自由に行われるなどさまざまな活動に活かされています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年4月に3周年を迎えるまだまだ新しいグループホームです。ホームの畑と新治市民の森に隣接された恵まれた環境の中、18名の入居者様が生活をされています。

当ホームでは入居者様一人ひとりのその人らしさ、各ご家族様の願い、職員一人ひとりの思いを大切に「入居者様・ご家族・職員で築くグループホーム」を目標に、日々取り組んでおります。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 水車の里
(ユニット名)	2
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	ホーム長 江田朱美
記入日	平成 21 年 2 月 16 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設から半年後、全職員の考えや思いを反映させ現在のホーム理念(目標)を作りました。ホーム理念は認知症介護の専門家として入居者様一人ひとりの「その人らしさ」を大切に考えたものとなっています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時の新人研修はもちろんのこと、カンファレンス等にて理念の重要性については定期的に再確認を行い、理念の実践に向け、日々取り組んでいます。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム理念はホーム玄関に掲示させていただいています。また、パンフレットへも掲載し見学、入居時には説明を行うなど、多くの方々にご理解いただけるよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	イベント開催時には近隣の方々へも便りなどでお知らせし、参加の呼びかけを行っています。また、散歩など外出の際には積極的に挨拶を行い良好な交流関係作りに努めています。ご近所の方には散歩の際に庭先の花を頂くなど大変よくしていただいています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内での催しなどについては自治会の方々より声をかけていただき楽しく参加させていただいています。年末の餅つき大会は入居者様にも大変好評で去年は全員参加にて地域の方々と交流を図ることができました。またケアプラザへの囲碁教室や音楽教室へも参加しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会名簿への記載などにより地域の方々から認知症や介護について気軽にホームへ相談に来ていただけるよう取り組んでいます。 またキャラバンメイトとしての活動にも参加し、近隣の方々へ認知症についての講座を開催しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で三度目となりますが外部評価・自己評価についてはカンファレンスにて再度説明を行っています。 今回も全常勤職員にて自己評価に取り組み、振り返りを行っています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をきっかけに多くの方々にホームを知っていただくことが出来ました。 皆様からのご意見については早急に対応し、サービスの向上へとつなげています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ブロック会などへは積極的に参加し情報交換する機会を多く持てるよう努め、サービスの向上へとつなげています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などを利用し各制度について学ぶ機会をつくっています。 また、必要な入居者様へは制度利用に対する支援を実際に行っています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の新人研修でも虐待や拘束について学ぶ機会を設けています。関連ポスターの貼付やカンファレンスなどを利用し虐待防止の徹底に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>初回面談より疑問点については十分確認を行い、不安の解消に努めています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にてホーム苦情窓口の案内を行っています。 また、公的機関における苦情窓口についても掲載し紹介を行っています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月送付する金銭出納帳やホーム便り以外にも定期的に入居者様の最近のお写真と共に近況報告を送付しています。 またご家族様来苑時には職員より近況報告を行っています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にてホーム苦情窓口の案内を行っています。 また、公的機関における苦情窓口についても掲載し紹介を行っています。入居後についてもご家族から頂いたご意見は必ず管理者へ報告する仕組みが出来ており早急な対応に努めています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関してはカンファレンス等にて報告を行い、職員の意見や提案が反映できるホーム作りに取り組んでいます。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様に状態の変化が見られる場合はカンファレンス等にて業務マニュアルの見直しを行い、業務内容の変更を行うなど柔軟な対応に努めています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間での移動については、必要最小限に抑えるよう努めています。また、ユニット同士、交流の機会を多く持つことでホーム内全体に馴染みの関係が出来るよう取り組んでいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修後は職員一人ひとりのスキルや得意分野を考慮し、外部研修への参加や、勉強会の開催などにて、常に安定したケアが提供できるよう努めています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会等での情報交換を始め、他グループホームとの交換研修などについても積極的に参加しネットワーク作りに努めています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員一人ひとりの状況に配慮し、無理なく業務が行えるよう、勤務時間や休みのとり方などについて柔軟に対応しています。 また、ホームで収穫された野菜などを無料にて提供しています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に職員がどのような状態にあるのか確認を行い、必要に応じ助言や支援を行っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談には十分な時間をかけ、ご本人やご家族の本当に求めていることや不安なことを理解した上で必要な援助、助言を行っています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談の日時や場所についても考慮し、ご家族が落ち着いた環境でゆっくりと話が出来るよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、現状に合わせた情報の提供に努めています。 他サービス事業所や行政とも連携し適切なサービスにつなげられるよう取り組んでおります。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学はもちろんの事、必要に応じ入居体験も可能です。 見学時は現入居者様との交流の機会を設けるよう努めることでホームの雰囲気を体感していただいております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさを大切に考え、その方の得意なことを発揮できる場面作りに取り組んでいます。人生の大先輩である入居者様から学ぶことは非常に多く、さまざまなことがホーム内にて実践されています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	相談を受けたり、ご意見を頂いたり、行事開催時には準備から片付けまで参加いただいております。 当ホームではご家族、職員が共に支え、築くグループホーム作りを目指しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各入居者様、ご家族様にとっての「最善の関係」作りに努めています。全職員がさまざまな思いを理解し、くみ取ることが出来るようカンファレンスなどを利用し取り組んでいます。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話などを利用し必要な支援が提供できるよう努めています。ご家族のほか、友人やご親戚などさまざまな方にご来苑頂いております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様一人ひとりの関係性を全職員が理解していることで必要な支援が提供できています。 他ユニットとの交流支援により気の合う入居者様同士が共に過ごし、生活に楽しみを持つことが出来ています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もホームより便りを送付したり、利用サービス事業所との連携により継続した関係作りに努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前よりセンター方式を利用しその人らしさを大切にした支援の提供に努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式をご家族様にも利用して頂くことで入居者様一人ひとりの生活歴の把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	概ね3ヶ月に一度のケアプラン見直し時にはカンファレンスにてじっくり話し合いを行っています。また、生活記録や申し送りノートにて全職員が情報を共有できるよう取り組んでいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	概ね3ヶ月おきにケアプランの見直しを行い、常に現状にあったケアの提供に努めています。ケアプランは全職員にて行ったモニタリング結果、入居者様やご家族様のご意向を反映し作成されています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月おきにケアプランの見直しを行っています。急変時にはご家族等と相談し現状に即したケアの提供に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録への記入のほか、毎日ケアプラン実施状況を記入しています。プラン実施の有無や提供内容等を記入する事でプラン見直し時の資料にもなっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望などについては早急に対応できるよう努めています。又、常に入居者様はもちろんの事、ご家族様がどのような状態にあるのか状況の把握に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの方による華道教室が開催されています。また、消防署職員参加による避難訓練や近隣の派出所にも協力頂き、入居者様の安全に努めています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前のケアマネジャーや以前利用されていたサービス事業所を始め、地域のさまざまな事業所と連携し話し合いの機会を設けています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議をきっかけに地域包括支援センターとの交流が始まりました。また、近隣に開設された地域包括支援センターとも協働し取り組んでいます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関のみならず、希望に応じ入居以前のかかりつけ医や専門医への受診についても柔軟に対応しています。受診後は家族へ結果を報告し治療方針についての話し合いを行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関への相談のほか、認知症専門医とも連携し適切な治療が受けられるよう支援しています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関の看護師とは些細なことでも気軽に相談できる関係が構築されています。看護師からの助言が日々の健康管理に活かされています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居様が安心して入院生活が送れるよう、介護サマリーにて情報提供を行っています。又、主治医とは直接話し合いする機会を設け、早期退院に努めています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族様へは「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」をお渡しし、ホームの方針、考え方について説明を行っています。 また必要な入居者様へは主治医とのムンテラ時、今後予想できる経過について説明し、共に今後の支援方法について検討しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状、ホームに出来る事の中で何が入居者様にとって一番良いのか、主治医、ご家族との相談を繰り返し支援を行ってきました。終末期はご家族様の気持ちも日により変化する為、何度も話し合いの機会を設け支援しています。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にお渡しする情報提供はもちろんの事、必要に応じて、新しいサービス事業所職員の方へも直接情報提供を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録は事務所に保管し取り扱いには十分配慮しています。</p> <p>入居者様の日々の生活はプライバシーに配慮された居心地の良い環境作りに努めています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入浴やその日に着用する衣類など、入居者様が選択する機会を作ることで自らの希望を表せるよう支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様一人ひとりの生活リズムを大切にし本人の希望に沿った支援の提供に努めています。入居者様からの希望やサインには柔軟に対応できるよう取り組んでいます。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしいおしゃれが楽しめるよう、お化粧品やマニキュアなどについても好みに合わせた支援の提供に努めています。理容・美容についても希望を伺い訪問理容や馴染みのお店の利用など柔軟に対応しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前のテーブル拭きから食事の準備、後片付けまで入居者様の状態に合わせた支援を行っています。お菓子作りなどはどの入居者様も楽しんで参加されています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>主治医と相談の上、飲酒・喫煙・おやつ等、継続して日常的に楽しめるよう支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表への記録にて一人ひとりの排泄パターンを確認し、適切な支援提供に努めています。また羞恥心に配慮し不必要なパッド等は使用せず、気持ちよくトイレにて排泄できるよう取り組んでいます。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の準備がされており、日々の状態に合わせた支援が提供できるよう努めています。入浴時間についても希望やタイミングに合わせて柔軟に対応しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に入居者様の状態に応じた対応を心がけています。又、その人らしい生活が送れるよう、一人ひとりの生活リズムに合った支援を行っています。昼寝の有無や就寝時間など一人ひとりさまざまです。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式やご自身、ご家族様からの情報をもとに日々のケアは行われています。日々の生活がより良いものとなるよう、一人ひとりに合った役割作りや楽しみごと、気晴らしがケアプランに組み込まれています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様、ご家族様と相談の上、金銭管理方法を決定しています。希望によりご自身で金銭管理されている方も多く、買い物へ出かけた際や近くの自動販売機での購入などはご自身で支払いを行っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などへはいつでも出かけることが出来るよう対応を行っています。各ユニット間は開放されている為、敷地内のベンチにて気軽に日光浴を楽しむことができ入居者様の交流の場となっています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の希望はケアプランに反映され、外食や買い物、ピクニックなど、一人ひとりの希望に合った支援が提供されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状などでのやり取りのための支援の他、ホームの電話、携帯電話をお持ちの方もいっしょに、好きな時に好きな方とやり取りができるよう柔軟に対応しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各ご家族様の生活リズムを考慮し面会時間は設けていません。 気軽に訪問して頂けるよう、居心地の良い環境作りに努めております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等にて常に話し合い、確認し、日々のケアに取り組んでいます。また、今年度は他グループホームと共に身体拘束廃止に向けた取り組みを行っていく予定です。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面に留意しながらも開放感あるホーム作りに取り組んでいます。 日中玄関ドアは開放されている為、他ユニットとの交流が自由に行えています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に職員同士が声をかけ合い、入居者様の安全に配慮した対応に取り組んでいます。夜間には二時間おきの巡視の他、必要に応じた見守り、確認にて安全に考慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状態に合わせた対応を心がけています。薬品などは徹底した管理を行い、必要な物品に対しては一つひとつ適切な保管方法で対応を行っています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットにて収集した情報をもとに、月に一度業務改善委員会を開催し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応方法や応急方法については全て業務マニュアルに記載され、全てマニュアル化されています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的開催している消防・避難訓練では地域の消防署より指導を受けています。また、火災や災害発生時の避難方法については運営推進会議などにて地域の方々と話し合いを行っています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的に入居者様の状態については文書にて説明を行っています。必要に応じて主治医にも参加頂き、今後起こり得るリスクや対応策について話し合いを行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日二回のバイタルチェックや日々の観察により異変の早期発見に努めています。必要な情報は生活記録や申し送りノート、口頭申し送りなどにより情報提供され全職員が情報を共有できるよう取り組んでいます。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の内服薬、外用薬については日々の生活記録ファイルに一覧表が綴じられているため常に確認が行えるようになっています。内服薬服用後は他職員にてチェックを行い二重の確認を行っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄リズムを理解し適切な支援提供に努めています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの状況に合わせ支援しています。また、必要に応じ提携歯科医院による口腔管理も行われています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析食や糖尿食など入居者様の状態に合わせた調理方法が行われています。食事量や水分量については全て記録を行い全職員が状態把握できるようになっています。また数種類の飲み物を用意し好みや状況に合わせた摂取が出来るようになっています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策会議を設け担当委員からの研修報告などが行われています。また各状況に合わせた対応策が業務マニュアルにてマニュアル化されています。必要な情報は回覧にて全職員に情報提供されています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は週に一度、賞味期限などの状態確認を行っています。又、冷蔵庫については週に一度の清掃と毎日の温度確認にて管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が畑な事もあり、大変開放感のある出入りしやすい環境となっています。また入り口スロープには季節の花などを飾り、畑では季節の野菜が収穫され来苑者へのお土産となっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは新治市民の森を見渡すことができ、入居者様は四季折々の景色を楽しんでおります。又、ホーム内の光や音にもこだわり、居心地の良い環境作りに努めています。その他、月に1回華道教室が開催される為ホーム内には常に季節の花が生けられています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビングのほか、ローカの一角にもイスを設置し中間的な居場所作りを行っています。また、事務所内はいつでも気軽に入居者様が入り出りできるよう開放されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が快適に生活出来るよう、入居時には馴染みの家具やご自身の好みにあった家具の利用をお願いしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前中の掃除の際には各部屋の窓を開け換気を行っています。各部屋の温度にも配慮しその方の状況にあった対応を心がけています。特に冬場は加湿器や洗濯干しにて乾燥に注意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが身体機能を活かした生活が送れるよう配慮すると共に必要な箇所では手すりやイスなどを利用する事で安全面にも考慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケアプランはその人らしさを大切にした支援内容で作成されています。またモニタリングではどのようなことに混乱されるのか検討を行い原因の追究に努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム入り口に設置されたベンチにて気軽に日光浴を楽しんでいます。また、ベランダや洗濯干し場では趣味活動が自由に行われるなどさまざまな活動に活かされています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年4月に3周年を迎えるまだまだ新しいグループホームです。ホームの畑と新治市民の森に隣接された恵まれた環境の中、18名の入居者様が生活をされています。

当ホームでは入居者様一人ひとりのその人らしさ、各ご家族様の願い、職員一人ひとりの思いを大切に「入居者様・ご家族・職員で築くグループホーム」を目標に、日々取り組んでおります。